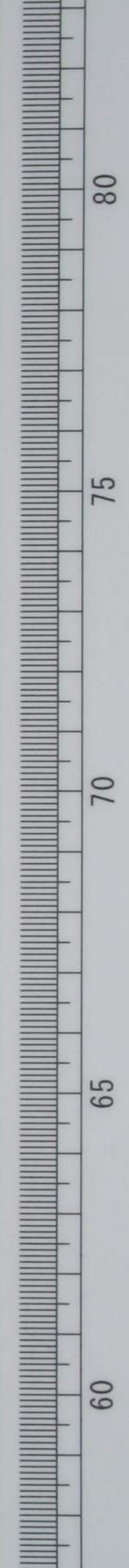




河竹燮河竹翁校正
 戸田鐵研著作
 小林清親画圖

本間文庫
 文庫 14
 D 274





明治十五年四月二十五日御届

著作者

東京府士族
戸

田 欽 堂

北豊島郡下駒込村
九百三拾一番地

出版人

愛知縣士族
増

田 三 郎

京橋區南紺屋町
二十七番地

賣 捌 所

銀座四丁目十六番地

歌舞伎新報社

其他各繪双紙屋

吹くろふどろりれ世にも國にもうとされて天高けれども
 脊屈まり地厚けれども扱足し恥辱と受るけふに及び我が
 是迄の過ちと悔る事の遺憾さよ 唄「扱敗將とある身こそ
 鶴の喉に心とき風の響きも 憚りの關路と越てようくと
 あさり忍びさどる木の許ト宜く思入此時向ふよりヘン
 リー「ヨーン農夫の拵へ熊手と鋤と持跡と附け出で來り叩
 き合ふ漂泊人は見て思入あつて足早に舞臺へ來る兩人
 も續いて追かけ來り(ヘンリー)「最前から伺ふ所怪しきそ
 ぶりの正しく盗人(ジョン)「わしら二人の目にか、れば生
 てハ置ぬ(兩人)覺期をせト上下より取巻く漂泊人思入あ
 つて(漂)「ア、コソ二人りの衆待つて下されわしハけつし
 て盗みちどとぞる者でハムりませぬ此頃世間の騒ぐし
 さに工商會社も不景氣にて日雇渡世の我ハくハくムや
 食迄に其日と暮し無據所より慈善の家の戸と叩き必あ
 らせも食乞ひ露命と繋ぐはりあき者お見退し下さりま
 せ(ヘンリー)「ヤア盗人さだけけしいハハのれが事最前

くらうろく」と此村中へめぐりあるき明集と規ふに違
 ひかい(ジョン)「てつきり左右と見留さへ一蹴うら追へバ
 逃るのうその身に聞いおぼへのある是を退れぬさしりあ
 証據(漂)「その疑ひにさる事ながら法律紊れし此世の中
 身の冤罪と訴る方かく手込めにされんも計られせと思に
 も考へてこゝ迄逃げましうが怪しき者でハござりませ
 ぬ(ヘンリー)「見ればつゞれと身にまとい乞食に等しきさ
 まとして形りに似合ぬ口のきゝさま去りとの合点のやう
 ぬやつ(ジョン)「察する所此間英吉利國の王が亡び其殘
 黨がこゝらあふりとさまようもへにとらへて出せば(ヘ
 ンリー)「デニス王より褒賞と下されんとある嚴しき御
 布告(ジョン)「此奴のどうやらうさんかやつ庄官許へ引づ
 り行(ヘンリー)「褒美の金にありつかんト兩人漂泊人の腕
 と左右よりとり引立にうゝる漂泊人思入あつて(漂)「スリ
 ヤさんと仰しやり開イギリスの殘黨をぞハハ思ひもよら
 ぬ御疑ひ左様う者でハござりませぬ(ヘンリー)「そのい



い譯の庄官かりへ行ツ上にてぞるがよい(ジョン)「サア
 ぐづくせせと(兩人)立おろろト無埜に引立ると漂泊人
 行まじと手と振拂ふ此はせみにもんどりとうつて左右へ
 うへり(ヘンリー)「アイターコリヤ二人とバ(ジョン)「投お
 つさかト尻とさそりあがら起上る漂泊人思入あつて(漂)
 コハ思ひざる我腕立〇イヤ何是ハ全く御兩人の力か餘つ
 て此御怪我どころお痛みハ被成ぬか何に致せ粗忽千萬お
 むるしあされて下さりませト下に居て詫る此内兩人御物
 と持立掛らうとして最前の手あみに恐れさとう思入あ
 つて目くバせあし(ヘンリー)「かう見さ所が只者からせ一
 くせありげあ面ら魂(ジョン)「まだも此上手向をせう(漂)
 かんて御手向ひと致しませう唯か疑ひと受ましと思ひぬ
 我身の濡衣と乾よしもがかと願ふのみ素より相手に足ら
 されバ(兩人)「あんと(漂)「イヤサ相手は足らぬ此わしハ今
 日で調度三週間馬鈴薯も食み兼て漸やく饑と忍ぶ身かれ
 バ立ッに目眩し歩めバ踏眼さ身体自由からされバいうで

お手向ひと致させよう(ヘンリー)誠然らば先ッ安堵イヤ
サあんに相違のいくしおし左程饑さら是でもくらへトカ
さへの土塊と取り投附ると漂泊人身とかわしてこれと受
留不禮ちやつと急度思入あつて氣とへ直にその土塊と
接吻し(漂)ハ、有ダふさ此賜物土は是れ國の本今計らば
も土と得るの國家回復のこれ吉兆(兩人)ヤ(漂)イヤサ土
の穀物からざればけふに迫りし我饑とこれにて回復いさ
しと今今戰國のあらいとて遥々沙汲む辛き世に三度の
食に事欠バ須臾も心安からず此場のこれにて御計し下だ
されト手と下げて頼む(ヘンリー)三週間食と喰をいよ
く致そこやつとバ相手にさるもおとあげおいとハいへ
此儘ゆるとも残念(ジョン)その計らひの頭腦にあり打殺
そべさやつおれと助け遣をそのわり爰で二人りの股と
く(漂)スリヤ私にお二人りの股とく(漂)とおつしや
り舛りと無念の思入(ヘンリー)おれと否まバ庄官たりへ
おのれと是より引せり行き(ジョン)拷問あして盗人り又

イギリスの殘黨の詮議とあそ合点り(漂)サア夫の(ヘ
ンリー)爰で二人りの股とく(漂)サア(ジョン)庄
官たりへ引せり行ふ(漂)サア(兩人)サア(三人)サアハ
く(ヘンリー)二ツに二ツの返事としろトきつといふ漂
泊人は非おき思入にて(漂)許と有に偽り無べいりにも
此場で仰せに隨ひ(兩人)二人りが股と(漂)く(兩人)中んト
合方きつぱりとさる兩人股と開き立掛る漂泊人手とつき
潛らうとさる正面柵の内にて(メレー)イヤ双方共暫く待
れ(ヘンリー)待てと聲かけ(兩人)止めし(メレー)誰
でもない此家の老婆アハ待って下されト右の合方
かそめて風の音にて正面柵の喰違ひより老婆メレー白
頭巾鼠色の衣裳手に牛乳桶と携へ出で来る(ヘンリー)誰
うと思へバ牧場の老婆(ジョン)おんで留めておつしやる
の(メレー)最前からの此場のやうに柵の陰にて開まし
さ(メレー)いお事よりつめさし此いさうの中敷ひに
何も白髪のお婆心いらぬお世話に止しも龜の甲より年の

功わしにめんじて二人共此場の事の水に流しサア水の流
れと人の身の流れは同じ海原に深い恨みといふでもおけ
ればわしにまうして下されいの(ヘンリー)折角さあこの
中裁(ジョン)只此儘にのゆるされぬ(メレー)イヤお
るされぬといふ阿丈夫能物と積つて見られよ其証も糺さ
せに人指して盗人ありといふ近頃もつて鹿忽ち又此人が
察しの如くイギリスの殘黨にもせよ斯く零落し葉武者と
バ功名手柄に生とりて人の落日と身の幸へ出で褒美
と賞んおと、不仁の事究鳥懐へ入る時、獵人もこ
れととらとといふぞや(兩人)サアそれ(メレー)譬へも
あれバ茲に此ま、わしにめんじて二人りの衆どうぞ免し
て下されいの(ヘンリー)了簡からぬ所おれと折角さあ
の扱ひも(ジョン)さあにめんじて安目どうり(メレー)
それでおゆるして下されい(ヘンリー)いりにも此儘免し
てやらう(ジョン)イヤ運のよいやつさアト合方風の音
にあり兩人思入あつて下手へはいる此内漂泊人のうつむ

き居て兩人の跡と見送り形ちと改めメレーに向ひ(漂)い
づれのお方り存ませぬさ差掛りさる身の難義とお救ひ下
さる御深切おんと御禮と申そう有難ふ存升ト辭義と
おし思入あつて實や驚鳳も翼おければ蟻蝶の爲に苦しめ
らる(メレー)おんといひる(漂)イヤサ鳥も翼のさき
時の虚空と渡る事と得る人も無能の我如き世と渡るに
苦しみて糊口におやめお思のをも歎息致してござり升る
(メレー)ヨ、最前からの様子とバ柵越しに聞て居ッさ
嘸飯し事やらん我家の爰くら遠くらぬあれに見ゆる林檎
ばやしの後ろが則住居にて今迄ばかりさる牛乳あれは是
と馳走仕せせうら今宵の飯と凌ぐれ(漂)今の難義と
お救下され猶その上に食せどもお恵み下るお志ざしあり
がさそきて冥加の程も(メレー)イヤその遠慮に及ませ
ぬ(漂)斯迄厚き御恩とバ重しお報いさし度も心にまうせ
ぬけうの身の上世の塞翁の馬にして禍福のよれる繩の如
といつう御恩の萬分一も(メレー)慈悲善根と旨とそれバ



させ賜ひ俄に王位と繼ぐに至れば寛仁大度の器量なく血氣にはやる匹夫の勇驕人と凌ぎしかば遂に人望と失ひて家の子郎黨四方に離散し或は敵國デニスに墮ひ又は他國へ去るもあり威勢旭と輝かしイギリス國も一朝の霜と消さる口惜しさ猶再興と計らんと敵の圍と漸く切抜け跡

くらまして姿より指方もなく漂泊しが不幸の中の幸ハ此家の刀目に助られ暫しの内の隠家と斯下賤の身とありて民の苦樂と思ひ當り我人望と失ひし以前の所業よりりみて悔の八千度憂りける月日と此處に過せしも時運盡ざる所ありて他國へ去りしう討死せしうと世に評られし此身とバ密かに探りて在所と知りよりくつどえ身方の殘黨多人數あらねど一人當千此近傍に潛み居て我に應援そのみかけふ山獵の歸り路にて敵國デニスへ探偵に遣し置さる一人が戻りての注進に一端敵に隨身せし身方の者も後悔おして歸國の念の切あるよし實に會稽の耻辱と雪ぎ今ぞ本國再興の旗幟と好機會折と見合せ此家と立去り軍の手配りおそくうんようハテ悦ばしき事じやあアト我と忘れて嬉しき思入此時奥の扉とまづかにあけ此家の娘イルスイザ髪と後ろへ編み下げ薔薇の花の髪飾り白の衣裳緋の下衣處女の袴へ耻うしき思入にて出で來りイオワルドの傍へ來る鞞音に恟りして(イルスワルド)ヤコリ

ヤお嬢さま(イルスイザ)何とそのやうに驚くのじや(イルスワルド)サア私か驚きましうかお嬢さまがお弾きされし洋琴の曲に心浮れ我と忘れて踏舞の學お聞きされのイヤ御覽爲れまししたる(イルスイザ)イヤ〜何も見いせぬわいの(イルスワルド)シテあかしのいつ愛へお出さされましるぞ(イルスイザ)ツイ今こゝへ來さのじやわいの(イルスワルド)〜エ左様で御坐りましる(イルスワルド)先聞れぬりと安堵の思入あつてシテお嬢さまに此程かおみぐれおされませぬの何の御用で此所へお出であされましる此寒風が御身に當る御毒にあれば一間にてやはり洋琴のお手をさみか能いお慰みでござりませラトこれより床の淨瑠璃に成り上るり「深山木々春の日影にはころびてまご初戀の恥しく心も花に置く露の匂ひこぼるゝ風情にてイルスイザじつと思入あつて泪と拭ひ合方にて(イルスイザ)かんの用とつれかい言の葉母さんのお留主と幸ひ忍び出さる寢屋の戸の關路と越て

私か來さも言ぬいふにまを思ひ耻しかから書贈る然の返事も待つらひかくつれおき人との知りあから猶戀まざる身の因果思ひ迫りて心經の病のづらひも誰がわざどもんかおさるゝおるじやわいの上「色香も深くいひ寄られ木竹あらねば壯夫が動く心も大事のまへ我とわがてに押さ



づめトイスワルド思入あつて(イスワルド)イヤ御戯談も程のあるもの私に眞受に受させ跡でお笑ひあされ升る思召でござり升か 上「柳に流と挨拶に娘心の一圖に迫り身のはりあささうこち泣(イルスイザ)女の口より耻らしい心の丈けといひよりし返事によりて身と捨る覺悟の兼て餘りといへば情きい 上「君が一言の誠と聞ば妾が百歳の命とも何おしうらじと一徹に返事聞ければ動らざるやうそにこきたり困じ果きつと詞を改めてトイルスイザとがりよりて泣居るイスワルド困りし思入あつて(イスワルド)見る影もあいやつぐれとかはど思ふて下さるとかんで否と申せう飛立ほどに心で嬉しと思ひ升けれど世間の義理のまがらみにへびてぬ縁も隔られツイお返事の出来兼るイスワルドが苦るしさのあつた様も御存の此秋計らせ御救ひ受けけふまで壽命をつぎまじふる御恩に御恩と重ねし身がその人柄も似つうりぬ末覺束あき縁にして結び歎き掛るの本意あらせ 上「御恩報じも仇枕は

うあき夢と相見ての後の心にくらふれば昔の物と思ひなる互ひの悔もあらんかし(イスワルド)御發明のあきもへわしと思て下さらば不義の奴といはれぬやう此道理と御合点遊ばしおあきらめ下さりませ(イルスイザ)それではかほどに思ふのにそあつた思ひされといやるう(イスワルド)只今申うはさきとも御縁があらういつく目出度上「静けき春に相生の松のよはひの千代かけて結ぶ縁にしもうさ糸のもつれぬ逢ふ瀬もありぬべしといふに娘の泣目と拭ひト此内イスワルドの不便あといふ思入にていふイルスイザの涙と拭ひ思入あつて(イルスイザ)事を譯さるそあさの詞あんといらへんをべもあし只此上の時來り目出度あふせと待つのみあから先づ夫迄の盟ひの印しに指輪の取やりしてくりやいの(イスワルド)スリヤをそれ迄の盟ひの印しに(イルスイザ)これ計りの今爰でわらはが願ひと叶へてくりや 上「せつある頼みにイスワルド思案にくる、門口へ立歸りさる此家の老婆道の邊りにイミ

てトイスワルドいりせん腕とくみ思案の思入此時下手よりいせんの老婆出来り能所にイミ(メレー)はげしき小夜の風さへも思ひある身胸にとりさ思案にくる、冬の日の一時退れに約しふる十時といへば十字架の碍障とつらぬく君の御武運開く工夫の兎も角も我家と落しまいらせて跡に我身に引受んが唯不便な娘が身の上、どうしさら宜らうぞト思案の思入あつて今戻りしぞや上「聲に胸りとつうりと娘の傍と引放れ心残して入りにけるトイルスイザ母の聲におどろき立上り心残りの思入あつて奥へは入るイスワルド門口へ出迎ひ(イスワルド)只今お歸りあされましう(メレー)大に遅うあつさわいの(イスワルド)無か途中の北風でお寒むかつたでござりませうドレ火間へ火と添ませうト立上り籠へ近寄るメレーの娘の影と見送り又イスワルドと見うへり思入あつて氣どろ(メレー)何じややら室内に物のくもる香のある火に何うくべりのせぬ(イスワルド)イエ何もく

べりの致しませぬ(メレー)ヲ、先刻をさるに言附置し洋餅の最早焼上りくといふにイスワルド胸りあし火の中に見て(イスワルド)ヤ、コリヤいつの間にかパンの黒焦トこれと聞メレーの好機會といふ思入あつて(メレー)あんといやる(イスワルド)申譯もあき事ながら火の傍に寒さと凌ぎ身のあさ、まりに思ひ知らせ飯寝いさしてござりませ(メレー)スリヤ焦廢りに致せしとトメレー腹と立思入あつて(イスワルド)鹿相あ事といさしまし(メレー)あれ程迄に頼み置しパンとこがしてどうぞる氣じや(イスワルド)あんと申そう様もあければ此上り身の情りとひさそら御詫仕れば御免あされて下さりませ(メレー)便る方あき漂泊と不便に思ひて目と掛しに匹夫もへに増長あし主と主とも思ひぬより言附し事も耳に留むる事とあせしよあ彼番犬を扶持さればその主の詞と守り牧場に牛の番する汝の犬にも劣りさる見下果し人非人(イスワルド)あんと御叱り駈る共申譯さござりませ

ねば以後と慎み升程にけふの所の何分にも(メレー)イヤ
 その詫言聞耳持ぬもはや世話のせぬ程に片時も早く此家
 と退れ〇イヤサいづれへありとも出てうまやうトメレー
 思入あつてきつといふ(イスワルド)スリヤ何ンとお詫と
 致しまして(メレー)ヲ、叶ぬくゝくる者とも知ら
 ぞしてけふ迄止め置さの今とありての残念でわしや悔
 しうて、悔し涙がこぼれるわいのト涙と拭ふイスワ
 ドの合点の行ぬ思入あつて(イスワルド)慈善の御心深し
 て日頃柔和の御氣質あるに身の誤りに是非あけれどけふ
 に限りて御怒り烈しく御許しおければ是非あかし〇止り
 難き身の上おれ(メレー)おんと井スワルド)イヤ迎もお
 許しおき身へ御意に随ひ此御家と立退升でござり升〇
 それにつけても是迄に厚き御恩と蒙りしお禮の詞に盡さ
 れを彼九牛が一毛の御恩報じも致さずに返つて此身のお
 こゝりに御機嫌とそこねまして申わけおきイスワルド唯
 此上の御願ひの一ツの功と立せしむら罪とおもるし下さ

りませ再びあさの麗しき御顔ばせと拜しとくそれと
 今より待せざる(メレー)餘計な事と申さると今にも知れ
 ぬ身の上おれバ〇イヤサ今にも知れぬ雨催ひふらぬその
 間に出て行きやれ(イスワルド)長居の恐れ片時も早くお
 暇致までござり升る〇寒氣の折也へ御身と大事に憚りお
 ぐらお嬢さまへよしおに傳へ下さりませお名残りおし
 くも此儘にお暇いさまでふり升るト辭義とあしははく
 と下手へ行此時奥かいせんの娘イルスイザ走り出で(イ
 ルスイザ)ア、コレ暫し待ちやいのトこれにて立留り(イ
 スワルド)待てトおとやめおされざるの私めにござり
 升か(イルスイザ)ヲ、様子おあれにてちく一聞と母さま
 へおわらひよりお詫としようくらまづ、まぢや(イス
 ワルド)ア、御坐り升分罪ある身也(イルスイザ)何ンで
 あらうとわらひにまうせ待てと申さば待ちやいの(イス
 ワルド)へ、エト合方さつぱりとあり跡へ戻り下に居る
 イルスイザ母親に向ひ(イルスイザ)申母さま定めてお腹

も立ませうが無調法といひおさうさういお事でお暇と
 お出しおさるとい母さまの日頃のお氣に似合ぬ事けふの
 所此儘におもるしおされて下さりませ(メレー)おさ
 の知つゝ事でおいいらぬ留立致しやるか(イルスイザ)
 スリヤお聞入のムりませぬか(メレー)エ、くどい事とト
 さつといふ娘のワット泣ふそイスワルド思入あつて(イ
 スワルド)お聞入おさ上からの拙者のお暇いさし升と思
 入あつてまづくと花道へ行メレーこおしあつて(メ
 レー)イギリスの國王アルフレッド様(イスワルド)エ〇トぎ
 つくり思入あつて〇イギリスの國王といそりや誰か事
 ござり升る(メレー)イヤお隠しあるおイスワルドといふ
 の浮世と忍ぶ御名誠のアルフレッドさまでござりませう
 か(イスワルド)ム、〇トぎつくり思入メレー思入あつて
 (メレー)お氣遣のござりませぬ一ト先ッこれへお歸り下
 されときつといふイスワルド思入あつてツカ、と跡へ
 戻り(イスワルド)斯推量の上からの最早我名と隠そによ

しかしかにも我の英の國王アルフレッドのあれの果
 (メレー)わが推量に違はせしてアルフレッドさまでござ
 りませしおまづ、これへお通り下され〇ト手とり上
 手へ住らせ下へさがりて一禮おしかかゝる高位の御方とも
 初めの存せお危難とお救ひ申て我家へ伴おかくまい申
 内それとそいさつ致せしがわざとそしらぬ体にもておし
 召仕とあら此婆が心の内のくるしさと御推量下さりませ
 (アルフレッド)ヤ、おんとト洋樂の合方に成りメレー思
 入あつて(メレー)思ひいづれば過し頃牛退ふ野邊に露し
 げく秋の千種の花咲て葉蔭にそぐく虫の音に沁もそみし
 葉月の末(アルフレッド)其折我の憂旅のきのふにかはる
 身の上に榮枯盛衰都那の夢の行衛とさまよふて時運と天
 に足まかせ此村落へ來りし折(メレー)月の雲間のくらが
 りにも怪しき者と見答めて所の者ごとりおさへ庄官かり
 へ連行んとお折婆が來合て深山おろしに樹々の葉の騒
 ざつ二人とおしとやめその場の御難議お救ひ申(アルフ

レツド) 此家へ我と伴ひて俄に勞れし身と助け窓もる夜
 寒の風よりも肌にまみく、忝き一かさあらぬ老女が世話
 (メレー) まご其時の風に爰へちりくる英國の殘黨とのみ
 思ひしゆる行衛知れざる我悻案事る親の恩愛に人の事と
 の思われ老(アルフレッド) 行衛おければ足と留旅の勞れ
 と休めよと厚き情の詞に隨ひこれ幸ひと奴僕とありけふ
 迄扶助と受さる(メレー) 日頃わらわが信心をこれぞ
 神の引合せ計らせ御止め申さ今とありての盡せぬ御縁
 (アルフレッド) 是迄受し大恩のきのふ迄のイスワルドに
 かつて御禮と申であらうト下座へ来て手とつき禮といふ
 (メレー) ア、勿体ない事おされ升るか〇ト手と取り元の
 座へ直し知らぬ内り免も角も知つて失禮過言せしそのお
 咎めもあらせして御禮のお詞蒙りてお答申も憚りありト
 アルフレッド詞と改め(アルフレッド) シテ刀自に如何
 して名と變じ形とかへし我と英王アルフレッドの成れる
 果と推諒せしぞ(メレー) 御尤あるそのお尋ね元私に御父



君エセルユルフ王の御代の折お仕へ申せしわらわ乳人
 (アルフレッド) それでいもしや我と育し(メレー) 仰せの
 如く私にあかしの乳人でムリ升る(アルフレッド) 扱乳
 人であつさるかシテ又我とアルフレッドとそちが素性と
 知つさる(メレー) 只今委細と申上んト床の淨るりに成
 り上「人や聞かんと外面と伺ひ元の所へ座と占てト床の合
 方に成りまご御幼稚のその折に余義かき事でお暇頂き此
 古郷へ立歸り年と重ぬるその内も都の空のあつかしくお
 育申せし若さまのいかに遊ばしましとるかト雨の夜雪の
 あけくれに思ひぬ日とていさかりしに世に戦國とうつり
 行き都の修羅の巷にありしと聞度毎に御案事申せと里數
 隔さる僻田舎その取沙汰もとりく、に明瞭とせねど英
 國亡び世としるしめを我君の討れさせ玉ひしとも又他
 國へ避け玉ひし共承りしその悲しさ獨り胸と痛めしガ
 誰に問んも憚りの世の成行とかこちつゝ仇に月日と送る
 内先頃お助け申せし時御幼少のゑお面ともまかと見覺へ

あらざれば唯英國の殘黨と思ふて我家へ留置し御行衛
 えれぬ我君の御存亡が知れもやせんと物のに事よせ尋ね
 しが知らぬといふもことわりや尋ぬる君にあかしのゑ
 (アルフレッド) シテ又我とアルフレッドといかゞ致して
 知つさるぞ(メレー) サアあかしのそれと知つさるゝ過し
 夜獨り寐所にて燈架の許に見玉ふ書物計らせそこを通り
 掛りハリ戸の窓より打見れば價貴さのみあらせ世にも稀
 ある御家の御寶我君あらで此品と所持せし玉ふものあら
 ヒイスワルドと變名して下賤に御身とやつし玉ふの育君
 にてあつさるかト飛つほどの我嬉しさそれに付ても此
 日頃知らぬ事といひひあから奴僕とさせし勿体さお詫
 とおさんと境戸と既に明けんと存せしと必に浮む事あ
 りてきてまばしと止りし君の驕慢に渡らせ玉ふより國
 と失ひ玉ひしよし誠しからば此儘に奴僕とあして召仕ひ
 其御氣質とさめ直とせめてもの忠義のはしと我に問ひ
 我にこゝへ必と定めてそしらぬ顔に一日くゝと過しる

そのせつあさいいか計りけふもけふ連聊のパンのこげしに口さぐあくのしりてふめせしが驕設の御氣質かく辱と忍び玉ふもえヤンられしやと心に悦び態と御立退と進めしの子細あつていざざり升る(アルフレッド)扱ひ我と書物よりアルフレッドと推量おせしか主と知つて此家と立退よととめし(メレー)それを先刻庄官より過急の迎ひにいて見れば思ひ掛けあいつぞやのジョンヘンリーの兩人がいつしか君とかん付てそれと訴人おせし故縣官某も出張おし君とからめ捕んとてわらんに向ひ詰問にの事實と知りてかくまいしか但し知らずに留置しか返答せよと手詰の難義爰ぞ我君の一大事と騒ぐ心と押しづめ態とそしらぬふもちして今迄夢にも存せぬがかかる人と留置うへに此身も退れ難からん願ふに彼と我手に召捕その功により身の罪と御ゆるしかされて下さりませ然し女のかよひき手にてからめとるの覺束おしと思召し玉のんが常く酒と多くさしめ酔しうへで召捕ば

取逃そ氣遣ひおしわらにはにおまかせおされしてあかの方が向ひ玉の力量とぐれし人おれ身方に怪我のあるのみか取逃と事も計られを偏にわらはへ此役目と仰せ付られ下さるべしとひささら願ひましされば然らば今宵十時迄猶豫いさし遣と程にかあらを共にぬかるかと縣官の厳しき仰せヤン嬉しや譬にもいふ一時のびればその内に君と落しませいらせんとどつかの我家へ立歸りパンの焦しと幸ひと事にかこつけ御立退とお勧め申ましされどこれ此世のお別れと思へばお名残おしまれてせさくる泪に未練も起り思はせお呼留申ましする婆が心の苦しさとお察しおされて下さりませ 上「子細の斯の次第と泪おからに物語れば聞アルフレッドの感じ入りトメレー宜く思入あつていふ(アルフレッド)今に初めぬ事ながら事實と問へば猶更に感じ入る刀自の誠心かゝる助けのある上「天運つきぬアルフレッド國再興の大望成就アラ悦はしや辱や 上「天地と拜し悦べば始終かゝへに泣ふせし

娘の思案にくれりし何思ひけん隠しより小刀とり出し生害の体に驚き押しとめト此内娘うつふせに成り居て起上り小刀とり出し自害しやうととると母メレーとがり留小刀ともぎとり(メレー)ア、コソ待の早まるお(イルスイザ)イエ、く放して下さりませ(メレー)ヤア何お名の生害ぞ子細も言せ死うととるのそちの氣おし違ふてか上「いふに娘の顔とあげ泪おがらに聲くもらせト合方に成り思入あつて(イルスイザ)ア、モシ母ささ氣も違はねば心も狂いぬどうぞ留せに唯このまゝ、我身と死おして下さりませ(メレー)そりや何おるに(イルスイザ)サアその子細と申さぬべ我身と恨み玉ふの御尤にのゐるあれどいふに言れぬ此場のしぎ御武運めでさき我君の御門出の幸先に流そ血汐のからくれおの穢と恐れのあるけれど軍の神への血祭りと思召てモシ母ささおゆるしおされて下さりませ 上「羽がもがる秋の蝶霜にはかかく枯る野と夢の浮世といひへにいで果んと娘氣の今いさか

涙も出せ思ひ迫れば母親ト此内イルスイザ宜しく思入メレーもこおしあつて(メレー)ホ、ヲ天晴あるその覺期今此母が望み通り死おを程にその譯と逐一咄して聞しやいのふ 上「いふに娘の涙と拭ひ(イルスイザ)その事わけのいふまいと思ひ定めましされど死ぬる今に母さまがいひのこせよとのお詞につまをおはかし申升る(メレー)シテ、く死ぬるその子細(イルスイザ)おはかし申も耻かしおがらいつぞやお助け申せしより我君さまと知らせしていととき殿御と戀しひあられもい事申せしが今とありての面おき事その人柄も似つかぬと仰せありしも御尤御主さまと家來の身所詮望み叶いねば死んでお詫ととる心申も恐れおはけれどいまはの願ひ我君さまふびんのものやと只一言仰せと聞ば此世の本望思ひ残そ事おければ願ひとあへて下さりませ 上「覺期のそれと娘氣の思ひあまりてかにくくと泪おがらにうさくどけバ聞母親の手持し小刀逆手に我咽へうと突立打ふせバ

ト此内イルスイザ宜く思入メレーもじつと思入あつて件
の小刀と我咽へ突立うつふせに成るアルフレッドイルス
イザ胸りおし抱おこして(アルフレッド)ヤ、コハ何ゆゑ
の刀自生害(イルスイザ)此身死ねばならぬけれど
いうるわけで母人にも早まつ事おされしよ(ア
ルフレッド)見受し所深手おれど幸ひ急所よけられ
早く醫療の手當とささん 上「立ッてどがりて押しめメ
レーくるしき息とつきこれより竹笛入りの合方に成り
メレーくるしき思入あつて(メレー)アイヤお構ひ下さる
お婆が自害の兼ての覺期子細と只今申上ん(アルフレ
ッド)シテく子細と申の(メレー)今方申上し通り二人の
者の訴へに縣官よりのいひ附に今宵につまるあかとの
御身片時も早う落しまいらせその言譯に自殺おし死を
兼ねての覺期も此場に心置玉のを時刻とつさぞ我君
に御出立遊ばしませ○ 上「手負の泣居る娘と見りへり
コレ娘歎きにまづむ所でない老先永きそちが身も母に別

る上ウらの獨此世に捨小舟よるべの岸もあらせして
きめみんよりもろ共に望みの通り生害せよ(イルスイザ)
母さまの御生害に前後不覺に取亂せし我おがらふが
おし仰せおくとお供して私しも一所に死に升る 上「此
親にして此子あり實に一双の女丈夫忠魂義膽勇ましく
既にうらよと見へければト此内親子よろしく思入あつて
イルスイザ自害仕やうとせると見て(アルフレッド)ヤ
早まるおイルスイザ今申聞と事あり刀目にも暫く苦痛と
堪へ我申事承はれ○ト音楽の入りし合方に成りアルフ
レッド思入あつて此アルフレッドが亡びる國再興の企も
既に成就おさんとせるとるのち親子の賜物にて第一等の
勳おれどその恩とさへ報せせにはりおく刀自の我爲に刃
にふして命と捨今又娘が母諸共死んとせると見殺しに何
とて爰と落られやうぞ武運の末の計られねと今改めてイ
ルスイザと我嫁りこれより苦樂と共にせるとる即英國の皇后
とせんこれおんちら親子の者へアルフレッドが寸志あり

異はいさくべ受とせよ 上「思ひ掛おき君命にはつと計り
に兩人が暫し詞もあかりけりメレーのやうく顔とあげ
(メレー)身に余りたるその仰せ只感涙の外おし左に去
りおがら我君のこれより忍び出玉ふに娘と伴ひ玉いら
路次の御不便のみあらせいかある大事もあらんと思ひ
過せばお受もあらせ○ 上「君の御せうと思愛の苦しき
づお我と斷つ是非も涙にうきくれてコレ娘冥加にあまる
今の仰せ承つて嘸そちも死ねばと云ふて本望おらん(イ
ルスイザ)母さまの仰せの通り實に難有き仰せと承れ
べ生前に結ぶ縁にしの薄氷り消る此身も君の爲未練殘さ
ぞ快よく悦んで死にまそる 上「母のメレーが自害せし亦
物と娘を取上るアルフレッドが押しめ(アルフレッド)
節義の爲にそちが心尤おがら今も申せし我爲に現在刀
自が自殺とあし又其娘が生害おさば此アルフレッドと世
の人お思議と知らぬ者ありと誹りを受るのみおらぞ我心
もとまざるおり一夫人と伴ふ爲に敵の手に落入る如き薄

運の身ありせばよしや獨歩酒行おとも敵の手に掛るの
必定決て氣遣ひ致とに及べぬとさつといふ母も娘も嬉し
き思入にて(メレー)便り少き我娘に斯迄厚き御せうと蒙
り御禮の詞に盡されせ(イルスイザ)賤しき此身に上さき
榮へ夢に夢見し心地して(メレー)お受申とも憚りおがら
(イルスイザ)君の仰に隨ひ升る(アルフレッド)色と愛るに
非ぞして娘が稀ある淑徳と且の恩義と報ふ爲目出度結ぶ
千歳の縁(メレー)エ、難有ふ兩人とさざり升る 上「其悦び
に張詰し心も弱り又更に別れともおさ母と子と口口に言ね
ど目に涙二人りご心察しやり(アルフレッド)思愛盡ぬ親
子の別れ心中さこそと察し入る申置べき事あらばおんか
りとも遺言せよ 上「厚き情のお詞に手負くるしと打忘
れ(メレー)何うら何迄残りおさ君の仰せの難有き思ひ掛
おさ娘が立身その悦びに又一ツ此イルスイザの兄おりけ
るゴスルムと名乗る一人りの嫡男の先年君の御軍勢に加
はりささに都へ登りその後絶て音沙汰おく定めて骨と野

さらしの尾花と共に枯れさるういつうい彼の性烈しく牧場うせきと厭ふより亡父が家産とつがせして兵士とあり



し荒くれ者心そぐのぬ子あがらも親の情に案事られ片時胸に忘れませぬ我君様の御武運目出度世とまろまめをその折に恐れいつる事あがら彼が生死と問ひまはらば最早今生に此婆が思ひ置事とざりませぬ(アルフレッド) ヲ、乳母がせがれとあるうら申さば我との乳兄弟詮致して遣いさんざんぞ証據のあらざる(メレー)証據の悴が所持いさる父祖相傳の短刀あり羅馬人の作ありといひ傳れど無銘にして焼刃のにはひ唯からせその刃面に獅子の彫あり世に又とき品あるもこれと証據にお尋ねあらば生死の程も知れませう(イルスイザ)わさしんちいさい時ゆゑに別れ程へし兄さんのその面ざしと存じませぬがかんど証據のふりませぬ(メレー)ヲ、兄のある時山嶺に猛き獣と仕留しが誤って肩間に手と負ひその疵跡はつかりと今に遺つて居るれば是と証據に娘の素より我君さまにも嫡子とばおさづねおされて下さりませ御恩に御恩と重ねし上りくる事迄願ふとの恐れ入る事

あがら今死して行装の愚痴唯御ゆるしと願ひ升る 上「いふ詞さへ舌凝り手足しびれるさんまつとそれと見るより聲はりあげ(アルフレッド)ヤア、刀自よ心残をさ此アルフレッドが身にうへて必を行衛と尋ね得せん(メレー)ア、難有きその仰せを承つて今生に最早婆が望みかし○我君さまに御武運めでさく○コソ娘能我君へ御仕へ申せ 上「諭を詞も四苦八苦呼吸の息も絶へにどる娘の泣きつみトメレうつと成るイルスイザとがりついで泣きながら(イルスイザ)コソ母さま今の仰せの生涯決して忘れの致しませぬ(メレー)ヲ、○それ聞て安堵せり○我君○娘サ、早く 上「早ふくとせりたてる折柄響く十時の鐘アルフレッドの氣どろへて(アルフレッド)今打つ鐘の早十時おしむ名残に去り難さも猶豫致さば折角の刀自が切ある本意に戻りむざく敵にあらめ捕れん爰より近きエセルノ島の兼て身方の本營と定め置る場所にして武運も開く英の春とバ期して身方の銘く此

所にてつと誓約あれバ一先彼所へ立退ん(イルスイザ)スリヤ我君にこれより直に(アルフレッド)此場の歎きの尤あがらイルスイザ早來れ 上「歎きと余所に立上れば(イルスイザ)これが此世の御別れさるう 上「どがる娘はらひのけ未練ものめと氣丈の老婆につこり笑ふと名残にてはかなく息のトメレ苦しき思入にてがつくりと成るイルスイザ寄ふとそるとアルフレッドコソト留るメレ



一 落入るイルスイザワット泣ふそアルフレッド顔とそむける此見得よろしく時の鐘うれひ三重にて幕

三幕目 デニス陳屋ノ場 同塞外だんざりの場
同 陳屋所刑の場

本舞臺三間の間高二重新木造りの家体正面三段の踏段後白幕張二重一面に鋪物と敷き左右跡へ下げて丸太の柵矢來此前に旗章と立錐鎗等の武器と並べ貳重真中に食椅上に住者と並べ野生か薔薇の花とさしふる花瓶と置き都てデニス陳屋の体上手にデニス王シエキング金線綾縫ひの立派ある軍服故意と帽子と脱ぎ散髪鬼髭いゆめし大將の拵へにて椅子に掛り玉の大杯と持居る傍に嬖妾ロウダ美事ある拵へにて扣へ此次に女童瓶子と持扣へ居る下手一間程へて樂人幻羅馬風異体ある衣装盲人の拵へにて琵琶と膝にのせ住ふ平舞臺上下に兵士大勢軍裝にて居並ぶ此見得宜く琵琶の音曲にて幕明くと大將悦喜の思入あつて(シエキング)ハテ天晴ある妙手うかけふ汝等が推

舉により呼寄せし此樂人人の噂に違ひせして迎陵頻仰も斯やと思ひ質に仙境に遊ぶ心地永く倦みし陳中の鬱氣と一時に晴せし此頃にあき愉快あるぞ(ロウダ)我君の仰せの如く鄙へあろ都にも類ひ稀ある巧みの音曲春の梅にさへづる鶯秋の千種にそとく虫の音それにも増る此調(兵士)兼て名譽の聞えある○樂人もるに○我輩が○此永陳の御あぐさみに○今日召よせまします所○我君の御意に叶ひ○御推舉致し身の面目○大慶至極に(皆々)御座り升る(シエキング)休息いささば今一曲所望致とぞ(幻)ハ冥加に余る御状と蒙り難有存じ奉り升る○ト辭儀とあして樵歌牧笛に似寄る拙き調へも顧みせ身にあはへざる技藝もて御國恩の萬分一報せん爲に推參おし何れも方々永陳に倦玉ふと思ひるも盲目もるに憚りかく恐れ多い御大將の御前問近く御召しに預り拙き曲とお聞に入いり計の面目う身に余りざる義で御坐り升る(ロウダ)勝れし技藝といひあがら御意に入りしのをさこの仕

合せ(兵)又もや君の御所望おれべ○猶豫致せ今一曲(幻)御辭退申し却つて無禮仰せに隨ひ此上の長恨歌の一曲と御聞にいれるでござりまする(シエキング)それの一段聞事あらん(幻)いでや此場で奏で申さんと琵琶と弾る此時揚幕の内にて(ハロルド)アイヤその音曲しばらくお止め下され(シエキング)なんと(ハロルド)陸軍中將ハロルド陛下に言上おことあつて是迄仕こつ仕るト音楽にて下手よりハロルド軍裝長劔と帯び陸軍中將の拵へにて出で來り舞臺能事所(軍式)一禮あつて住ふ(シエキング)ハロルドに何用あるう只今遊興半ばも悉重にて出仕致せ(ハロルド)御談で候へども猶豫おらざる一大事唯今密りに申上さし御遊興のさませげおし恐れ入れと暫時の間左右と遠ざけ下さるべしトこれにて大將不與ある思入にて(シエキング)何にもせよ密事とあれ皆の者の遠慮致せ(兵)ハア(ロウダ)左様おれ私も(シエキング)ヲ、そらも共々次へ立て(皆々)ハアトヤ

りり音楽にてロウダ女童の奥兵士上下へは入る 幻思入あつて(幻)密事の御用とござり升れば手まへも退坐致し升ると琵琶と抱へ思入あつてさぐりく下手へは入るシエキングあふりと見て(シエキング)シテ猶豫あらぬ密事とト琵琶の相方に成り(ハロルド)只今拙者申上る御心静めて聞し召せ彼小敵と見て侮ざるべからせと申教へ御存じならんに君の敵とあかどりて所もあらうに陳中にて晝夜分さぬ御遊興敵アルフレッドの一軍の多人敵あらねど必死の輩ら數月の間恨みと呑み千辛萬苦の末の旗あげ油断おらざる義で(シエキング)イヤ何事おるうと思ひしに笑ふべきをのうつさ日頃に似合ぬ汝が臆病アルフレッドが旗擧と何恐る事あらんや彼れが我に敵をるの蟻螂が斧ともつて立軍に向ふに異からん(ハロルド)それがお奇どり玉にて今申さるとも古より驕れる兵の敗れ安し例し則アルフレッドがその國と亡せしもその身驕りて人望失せ終に滅亡おしるるあり君王悟り

玉のせパールフレッドが靴と踏玉のんとこれと聞シへキ
 ング怒れる思入あつて(シへキング)ヤアどまれ中將過言
 ありハロルド我と敗將さるアルフレッドにさくらべてか
 にかくと罵するの主へ向ひて無禮あり他人あれば一刀に
 切つて捨んが是迄の軍功によつて此度の此儘に許し遣
 さんどくく立つて退出せよ(ハロルド)君の御意に逆ら
 ひて御不興願ふハロルドからぞ斯御諫め申のも君の御必
 つうざる此陣中の人心或の信じ或の疑ひかるが故に
 二心と抱く者おしとも申難しまつさ上と見習ふ下されば
 騙りて警備もおこりぐち今速くに御遊興の酒宴と思ひ
 止まらせられ軍議の席に換玉のせをくしき大事に及ぶ
 べし拙者御諫め申せしと御聞入ある迄此所と一寸も
 動くまじき微臣が精神(シへキング)ヤア我意につる無
 禮者誰りある引立てよ上下にて(兵)ハアハトバくく
 て上下より以前の兵士出で来り(兵)ヤア我君の許意ある
 ぞ中將殿(皆々)お立あされ(ハロルド)イヤ各々方扣へ

召れ御諫め申り君の御爲(兵)ヤ(ハロルド)手出しとささ
 せ扣へ召れ〇トきつといひ斯迄拙者御諫め申と御採用
 あさ上りテニエ國の傾く天運是非もあければ今一度トハ
 ロルド座とせむシへキング劔とひさげ立上りきつとあ
 つて(シへキング)ヤア言して置ば喋くくと附上りあそ憎
 つくきやつその舌の根と止めてくれうト劔と振うけるハ
 ロルド最早是迄といふ思入あつて(ハロルド)御聞入あさ
 上りら微臣も君の御手とわららんと迄もあし我一
 命と誓とあし君の悔悟と促さんト腰の小銃と取出し我咽
 へ雷引うねと引く鐵砲の音してハロルドくるしみ倒れる
 これと見て兵士驚き騒ぐと(シへキング)ヤア立騒が定と
 扣へ居よ(兵)ハアハトみかく下に居る(シへキング)折
 角の遊興と殺風景にさまたげられさり席とくへて奥の間
 にて長夜の宴と催さん(兵)さやうされば(皆々)我君さま
 (シへキング)いづれも来れ立上る皆くハット平伏あ
 り此もやうよろしく訓練の鳴物にて此道具回る本舞臺左



右石垣柵矢來常盤木の立木日覆より同じく釣り枝正面野
 邊の音割天套野營灯入の遠見都て陣所外構ひの体囉叭の
 音へ風の音と冠せ道具留るト上手より忍び廻りの兵卒二
 人囉叭銃と携へ出来り(兵甲)イヤ役目といひさから忍

び廻りも太義事さぐこれくら密りにいつばいやりト
 寝入やらうさうか(兵乙)一体飲酒の陣中で堅くいましめ
 あるけれど大將うらして反則の罪の退れぬ事さうら叱ら
 れも仕舞う(甲)何まうられてさるものうあそにも知
 れぬ命のやりとり此戦場のうさはらし酒にうへこそも
 のい(乙)段々更るに随ひ夜寒の風が身にしみる早
 くいつていつばいやらう(甲)それがよいト右の鳴物
 にて兩人上手へは入る跡本釣鐘と打込み寒みの合方うそ
 く風の音に成り石垣の影より以前の樂人幻琵琶と脊負
 ひ忍び出で目と明き四方と窺ひきつと思入あつて(幻)我
 と誠の盲目と敵に心ゆるせしゆるぎ藝と頼みに近寄り
 て敵地の様子逐一に熟知あせし我武運正に開くる吉兆
 にてあその夜討の密計も味方の勝利疑ひあし夫に就ても
 敵王より琵琶と彈せし酬として我に贈りし此黄金身に纏
 ふも心よりうらを此草むらへ打捨行んと隠しより金包と出
 し傍の草むらへ投捨向ふへ行りける又本釣鐘と打込み件

の合方にて石垣の影より兵卒ゴスルム兵卒のこしらへ左
 の手に丸燈と持窺ひながら出で来る幻此灯影に思入あ
 つて行掛るゴスルムつりくつと行き幻の腰とらへ引
 戻し是とふり拂ひ立上りゴスルム丸燈とさし出せと幻
 打落とゴスルム直に組附んとせると幻身とくつし手先
 と取合ひ立廻りあつてト幻脊負し琵琶の柄の仕込し
 刃と振りけるゴスルムその手と止め又立廻つて幻仕込
 みと抜き切り附るゴスルム丸燈ととりこれとうけとめ此
 火影に思入を兩人顔見合せ互ひに思入あつてゴスルム
 跡へ下りてふめらふ幻のツカくつと花道へ行ゴスルム追
 うけんとせると幻手裏剣と打ゴスルム丸燈にて受留るこ
 れと木の頭ゴスルムきつと見込む風の音らつぱの音にて
 よろしくひやうし幕幕納ると幻引抜きにて美事ある
 軍装に成りきつと見へ琵琶の入りし詠へ派手ある鳴物に
 て向ふへふつて這入る風の音にてつぎ直に引くへと
 本舞臺元の陣屋の道具貳重正面にデニス王シヘキング金

冠軍服大將の拵へにて椅子に掛り左右に兵士居並び平舞
 臺に前幕の兵卒ゴスルム細付にて扣へ後ろに兵卒細と扣
 へ兵士細と下げ立掛り居る都て陣中刑罪の体陣太鼓にて
 幕明(シヘキング)ヤア敵の間者と知りながらどらへせし
 て訴へしその方が科あるも死刑に行ふ覺期あせ(ゴ
 スルム)此身のわける科により軍律と蒙るは是非もあ
 き事ながら暫く御猶豫下さりませ(兵)此期に及んで猶豫
 と願ふのさりとつひさやう千萬か(ゴスルム)死するのさ
 らく厭ねと思ふ子細と言上せせして死するがうに
 も遣うんもゑ(シヘキング)いうある事存せぬと臨終の
 際の願ひとあれ十分時間の猶豫と與へん(兵)君のお許
 しある上りどくつと此場で(みあ)申べし(ゴスルム)
 言上おそい外から昨夜某陣外と忍び廻りに出し折同
 勤の者よりもそこし後れて近路と来りる向ふへ怪しの
 人影何物あるうと近寄て星明りに窺へば世の常ならぬ異
 体の装ひ正しく晝間召させ玉ひし樂人からんと察せしに

彼のあふりに人あさと思ひ君より贈はるひき出ものど心
 ありてうおしげもあく草むらへ投捨て行んとあそ心得
 せいうにも稀有の振舞とからめとらんと組附ぶより拂ふ
 ていどむ内我携へし丸燈の火影に計らる見合を顔どつく
 と見ればこのうに彼樂人に出立て此陣中へ忍びこみし
 の敵の大將アルフレッド(シヘキング)ヤア初め最前の樂
 人のアルフレッドであつさるう(兵)我々共の存せぬに
 いうと致して存あるぞ(ゴスルム)元某の英の兵隊それ
 也あよつく存より升る三日ふりとも扶持せられし英王と
 知る上り以前の主に對しがさく態々其場と見退せし心
 に決する所ありて軍律蒙る身の果元より覺期にござり
 升るト是と聞シヘキング無念の思入あつて(シヘキング)
 ヤア返せくも敵將と見退せし遺憾かり言ふやうあき
 謀叛人めが(ゴスルム)イヤ謀叛人に候の今所刑の際
 に臨みて君へ此義と申上げ汚名とそいで快よく所刑と
 受ん我存念(兵)左程英王と存あから何也あうらめ捕ざり

しど(ゴスルム)某一度英王の配下にぞくせし身のうへ
 にて國滅亡のその以前よしや彼地と去るにもせよ一旦王
 と頼みさるその人どらへぬ忍ざる所あればかり則ち
 是と忍ぶべくその忍ぶべき心と以て現在の我君に不忠
 と働らく事あらん今彼の人と見のがして我が志しと達
 せしうへん更に又君に向つて忠告致そ一大事あり(シヘ
 キング)あん(ゴスルム)正に敵將に知られさる此陣備
 へと速に立直そお計らいぞ魚眉の急務に候はん案内知つ
 たる敵勢が攻来らば味方の不便此義申上るににおいて最
 早思ひ置事おしイヤ我首と刎られよこれぞ某本懐あり
 此ゴスルムが身にとりて彼の君と此君へ盡そ節義の苦る
 しくも死して我身のけつばくと世上へ表せば快よく今ぞ
 瞑目仕るトゴスルム首とさしのべ覺期の思入シヘキン
 グ感じさる思入にて立上り(シヘキング)軍令に背くやつ
 かれどけあけある覺期もゑ我自ら制敵ささん(兵)スリヤ
 我君がお手づから(シヘキング)いうにもかれさ首とはね

ん〇ト平舞臺へ下り兵士が持て居る首切剣を取りさし出
 そ外の兵士水と掛るシヘキングとつと思入あつて立掛り
 謀叛人の制敗まつこの通り〇ト縛り縄とふつ切り切る
 スルムこれのと驚き見りへるシヘキング剣と投げ捨思入
 あつて感じ入る汝が器量其身賤しき兵卒おれども志し
 の天晴く旗下にかゝる人潔あるとけふ迄知らせ過せし
 のこれ則我が誤り今改めて兵士にとり立軍議の席に連
 かせん此上共に忠勤せよ(エスルム)ハ、難有ら君命と
 もどくの恐れいつされと一端軍律によりて斯死刑と定め
 られしと今助命ある時の君の御威光薄きに似たり又某も
 存命おさん巧みに欺く陳せしと言れんも口としく候へば
 死するが却て身の本懐イザ御成敗下されい(シヘキング)
 汝が意見去る事おから大切ある軍律の面目欠しといふに
 あらお既に首の討されども従前のエスルムの一刀の下に
 刑を受け又目前のエスルムは是則蘇生にして一端處刑
 の濟し上り今無罪の跡あり是につけても遺憾なき陸軍

中將ハロルドが忠義の諫を聞入せあさら英雄と失ひし
 我後悔いり計り今又汝の首と刎て後に斯ごと事實と知
 らばいりに悔しき事あるべし幸ひにして其期に先立思ひ
 得ざる事あつて制敗おさぬ悦ばしき辭退の返つて我が意
 にもとれバ存命おして忠義と盡せ(エスルム)斯く迄厚き
 君命と蒙るの我身の面目微力おから御恩報じに忠勤とは
 げむでござり升る(シヘキング)ホ、フこれにて我も満足
 せり何にもせよ心懸りの只今汝が忠告せし敵が知つる
 此陣備(エスルム)片時も早く御下知あつて取直を味方
 の肝要(シヘキング)らの手配の諸所と固むる(エスルム)
 隊長方と呼集むる(シヘキング)囉叭の譜號と吹立よ(兵)
 ハア、ト傍の兵卒ラツパと吹立る(シヘキング)今より
 陣備と取直せバ敵の計器齟齬おして(エスルム)味方の勝
 利(皆々)疑ひおし(シヘキング)アラよのこばしき事じや
 おアトにつこり笑ふ皆く引張りの見へにてラツパの音
 に勇ましき鳴物と冠らせよろしく暮

四幕目 エセルニ島城門前の場 同城内大廣間の場
 本舞臺正面鉄門左右石と疊みし城堀内に樹木の植込み日
 覆より同じく釣杖都てアルフレッドのエセルニ島城郭
 外堀の体爰に門衛の兵卒二人△劍附銃と肩にして左右



に立並び居るラツパの音へ水音と冠らせ幕明く△此エセ
 ルニ一の廣くもあらぬが四方沼地で圍ふ故要害けんを
 此城郭△さればこそ我君が本營に爰と定められ先達て
 より數度の戦争△敵王デニスも一端の軍師エスルムが計
 畧にて再び軍ともりうへせし大履覆がへらんとする時
 に一木おんぞこれとさへんの營にもれ軍勢衰へ身方
 に降る者多し△それにつけても我君の御武運目出度いつ
 ぞやも誠に非凡の御英斷にて只御一人にて敵陣へ忍び入
 り玉ふ其折に彼エスルムが見咎めしが奮思と思ひ我君と
 見退せしと申す事△是と申も日頃より寛仁大度とほどこ
 し玉ふと天の助け玉ふおらん此機に望んで合点の行ぬの
 打敗るにうさうらぬ敵の陣と取圍みこさより鋒と交へ
 る數日と送るのいりあるわけか△是にの深き御所存の定
 めてあるに疑ひおし我くども解しがさひさきのふ君
 のお計らひにて御城内と敵陣へ餌とあさりに行かぬ鳩と
 數十羽とらへよとの御差圖△これにも何う我君の深き思

召のある事あらん。いりある御用にある事か合点の行
 事でござる。此時向ふより斥候の兵卒走り出で来り直に
 本舞臺へ来て(兵)ハッ御注進。御注進とい(兩人)何
 事あるぞ(兵)申上度事ござれば御取次下されい。心得
 るぞト門の内にて(ジヨナセン)イヤ取次に及べぬ。只今そ
 れへ参るであらう。ト鉄門の内より門衛伍長ジヨナセン
 軍装剣と携げ出で来りあひ。ハッ注進とい何り異變の
 事ある(兵)ハ、さん候。只今敵陣より武者一騎ござると
 して参り候(ジヨナセン)何敵より武者が参りしとあ
 兵卒跡と見返りて(兵)アレ。最早此所へ間近く参つて
 ござり升る。敵の武者とあるらう。柱より所(兩人)
 只一討(ジヨナセン)イヤ必共其に早まるを兼て君の仰せ
 もあれ。先えばらく差扣へ彼が舉動に目をつけて我指圖
 と相待れ。ハア、ト扣へる。此時向より前幕のオスル
 平常の禮服騎馬にて兵卒と連れ出で来り能所に馬と止
 め(オスルム)敵陣へ物申さん斯申(デニス)王の臣下オス

ルムあり則我君命受使節として推参せり親しく英王に見
 参の上寡君口誼と申述べ。此義よしお取次下さる
 べし。ト異義と正して静りに下馬。供の兵卒に馬と渡し
 獨門前に進み一禮とあそ伍長ジヨナセン禮と返し(ジ
 ナセン)デニス王の使節とあれ。バト捧げい。銃と號令
 と下と門衛の兵卒聲に應じて捧げい銃の式とあそ(ジ
 ナセン)シテ使節に。是非共寡君に直接あらで。意中
 と盡されぬ。どの事成か身不省ながら某し。仰せ聞られ下
 さるまじきや(オスルム)仰せでござれども主命と蒙れ
 ば是非共君主に拜謁し(ジヨナセン)然らば暫し扣へ
 られ。此義披露に及びし上いかやの返御事仕らんとジ
 ナセン兵卒とつれ門の内へは。入るオスルムあよりと見廻
 し(オスルム)敵があらも天晴かり地の理と得る堅固の
 城郭感に。へさる事じや。アト感心せし思入にて城門と
 見上る。此見得よろしく陸軍の樂太鼓にて道具廻る。本舞臺
 正面上段。後ろ美事なる張附の聞き戸上下同じく開き戸

一面に鋪物と鋪詰都て城内軍議の場廣間の体具中に玉座
 あり。平舞臺左右に軍装の諸士列と正して住み。此見得時計
 午前十時の音にて道具留る(諸士)只今打し十時の時計
 最早我君御出坐あらん。去るにても寛仁大度の御處分あ
 りしに今もつて。何の返事のあらざる。敵に貫輸せざる
 からん。○此上。只一擧に討じと専一からん。○いかにも
 君へ申上げ。○一時にデニスと(皆)討じさん。ト此時奧
 にて(アルフレッド)ヤアその軍議暫らく待と(諸士)最早
 君の(皆)御出坐あるぞ。ト音楽に成り諸士平伏を。奧
 より英王アルフレッド花やうある軍装にて出で来り。ま
 けの玉坐に住居思入あつて(アルフレッド)今奥殿にて開
 所一擧に敵と亡ぼさんと諸士の軍議ことりあがら。自他
 の區別とまばらく問を敵といへど。其元。皆此國の人民あ
 り。且の味方も勝敗と一時に決するその時。何らあらはげ
 し。接戦あし敵の素より味方逆も死傷ある。必然。此
 慘狀に至らしめ。國の治安と謀らんと。さのふも汝等の知

りし通り幸ひある。敵陣へ餌とあさりに行かひ。あそ鳩數
 十羽ととらへ置。足へ密書と。結目もるく結付て鳩
 と放しやつたれば。必敵陣へ散布さん。その文意の利害と
 説降伏と進めしものにて。シヘキング。是と如何ぞ。か知
 らざれど。オスルムがあるから。無下に密書と取捨て見
 へさる事あるまじと。我のこれと信を。今にも敵より換
 撥あらん。先ッそれ迄。接戦の軍議。暫く見合を。べし。か
 し。汝らの意見も。あら。遠慮なく。陳述せよ。ト諸士ハッ。ト思
 入。此時向ふより。兵士一人。走り出で来り。手下に居て(兵)
 ハッ。申上。只今。御門衛伍長。ジヨナセン。過急の事にて。我君
 へ。言上と。べき事ありと。て。仕候致して。御坐り。升(アルフレ
 ッド)過急の事件とあるらう。これ(ト)申せ(兵)ハッ。畏
 つて。御坐り。升。ト。向ふ。向ひ。御次に。扣へし。ジヨナセン。御
 前の。御召し。急い。是。ト。向ふ。にて。ジヨナセン。ハッ。ト音
 樂にて。向ふ。より。以前の。ジヨナセン。出で。来り。能所に。住ひ。平
 伏する(アルフレッド)過急の知らせの何事あるぞ(ジヨ



ナゼンハッ只今大手の御城門へ敵方の使節としてゴス
 ルムと申者推参仕り君王陛下に御目通りを申し御直に使
 節の趣きを申上んと其者強て此義と願ひ外るがいう
 取計らひ申ませらや(諸士)扱こそ君の御察しの如く敵よ

り使節が参りしとり○これ外あらせデニスよりかきぬ
 軍と見限りて○使節をもつて我君へ降伏せよに疑ひあし
 ○何にいせゴスルムが直に調し奉つらんと○倍臣の
 身をもつて近頃無禮を振舞あり○御賢慮伺ふ迄もかく我
 くの内出會いさし○その申状承らん(アルフレッド)
 イヤかたぐその義に及ぬ敵王デニスの所望に任せ我自
 ら面會せん(諸士)御説で候へども油断のあらぬ(皆
)敵の使節(アルフレッド)其遠慮に及ばぬ事深く
 存せざる子細もありりもつて敵の使者我面前へ伴ひ
 参れ(ジョナゼン)ハット辭義とせるこれより床の淨瑠璃
 に成る上「はつと答へてつて行トジョナゼン辭義とあ
 して向ふへは入る上「程もあらせ敵の使者兼て軍師の
 聞えある智勇勝れしゴスルムが伍長が案内に入り来れば
 ト此内向ふよりジョナゼン先に案内して以前のゴスルム
 出で来るアルフレッド是を見て(アルフレッド)戰爭未だ
 半にして勝敗と決せざれば双方牛角の事あれば此席へ進

まれよ(ジョナゼン)イザくわれへお通りあれ上「進め
 にこあへ打通り異義と正して立禮おしトゴスルム本舞
 臺下手へ来り立禮と申し(ゴスルム)寡君微臣ともつて使
 節とし拜謁の上我々意中とちくいちに申述よと至命に依
 て推参せしに異議なく城内へ導れ斯拜謁と許されて臣が
 身にとり祝者至極使節の私事あらせ失禮御免下されい
 上「禮義と厚く静くとせうけの椅子へ坐と占れば左右
 に居並ぶ諸臣等が油断をらせと目と配り君と守護をし扣
 へ居るト文句の通りゴスルム椅子へかけ諸士目と附け居
 る(アルフレッド)シテ使節の口状(ゴスルム)只今つゞ
 さに申述ん○ト音楽の入りし合方に成り惣じて軍の勝敗
 の時運によれば定めがしたとヘデニスが是迄に數度の
 敗れと取るにもせよ時來つて結局に勝利と得るも計るべ
 くらそその兎もあれ角もあれきのふ鳩の翼によせ送り越
 れし君が書状に利害と説て降伏せよと云々記せし厚意の
 文体篇と一覽致せしが然し旗とふせ武器と渡し軍門に降

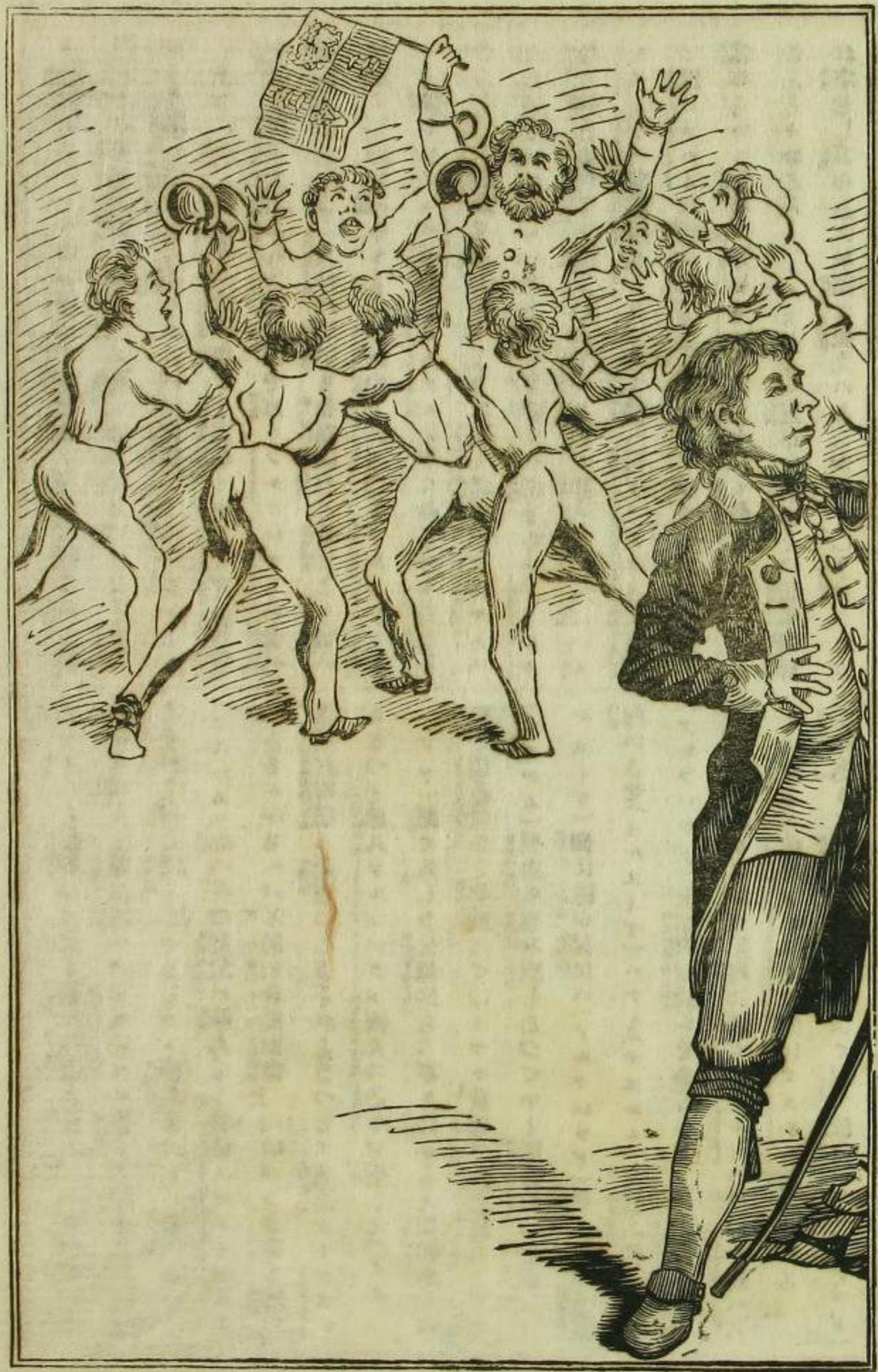
る事い決て承引ありがさし若や其義に候いハ慥と山野に
 さらそ共と主従決心致して御坐る○去りあがら全國の治
 安と謀りて人民等が士族の苦にちいらざるやう寛仁の
 御處分あらば本より御同意仕る願ひく和議と整へ一端
 デニスにぞくしる英國の舊領のことく返附あし更
 にデニスのこれよりして東方の地と領し永く兩國の親睦
 と今日に引替て結ばん事と希望せり此義御得心とあるあ
 らべ速に和議解兵をさんこれ寡君の本懐にして我が私し
 の言にあらせ上「辨舌水の流るゝ如く國の浮沈と身に引
 受使節に立し壯士の語氣や勇々しく聞えけりアルフレッ
 ドの打らあづき(アルフレッド)使節の口状其意と得り
 去らば我所思と申述ん降伏とうけがらを和議調んどの申
 込み末期に及びて屈せざる勇士の本色左もあらん然し我
 が舊領と回復とれば則我の元の如く英の國の國王より一
 國にして二つの王あるべき道理あらざればたとへ降伏の
 式と用ひざる迄の事にて以後デニスハ附庸の國なるべし

然る上王を唯々國主ト唱んのみそれと得心あるか
らば望みの如く東國の地方と割きて所領ならしめ今日迄
の怨みととき永く親睦と結ばん所存右の條約をたらば
我において一議なく直ちに解兵致さべし上「悠然として
答へ玉ふ自づと備へる國王の威風は流石のゴスルムも坐
と下りて敬服せしトゴスルム思入あつて下坐へ住ひ(ゴ
スルム)兼てより英王の寛仁大度の御計らひ斯あらんと
推測せし懐中せし條約書イザ御一覽下さるべし上「懐
中より條約の一書と取出し恭しくアルフレッドへさし出
せば封と開いて打見やりト此内ゴスルム懐中より條約書
と出しアルフレッドへ出さアルフレッド開き見て(アル
フレッド)和議調ひ解兵の上の速りに舊の如く一國と我
に返附し其身東國の一地方と申受け子々孫々逆意なく永
く親睦と結ばんとある云々の明文あれば我においても異
義あらむ儘に承諾致しさり又此方よりの條約書は後刻ま
でに手渡しとべし和議調ふ上うらり不祥の戰雲爰に晴れ

治安の日月仰ぐ事此上もなき大慶あり(ゴスルム)早速の
御承諾にて使者に立たる身の面目大悦至極に御坐り升る
(アルフレッド)談判逐一調ふ上の餘談に渡り事改め汝に
謝する一義あり(ゴスルム)何微臣に謝せると仰せあるの
(アルフレッド)ア、忘れもせぬ此戦ひいまだ半の事あり
シダト琴入りの合方に成り敵の舉動軍配を探らんもの
と大膽にも我樂人と身と和し其陣所へ入込みし折り計ら
せ汝に見答られ引留られしと振拂ひ暫しいとみ争ふ内丸
燈の灯に顔見合せ我の汝と知らされども汝の我と知つた
るう心ありげに留もせせ見のせしれもえつゝがあく危き
其場と退しし不思議ありと思ひ居しに後降伏の者より
して悉く事情を承れば身軍律と甘んじて舊恩と忘れ
ざる汝の處行天晴も今改めて謝するあり夫に附て猶汝
に尋ね問ふべき一義あり事勿卒に似されども若しや汝の
父祖相傳の刃の面に獅子の彫ある無銘の劍と所持せざる
や上「思ひ掛き國王より父祖傳來の劍と問われ心にふ

しん晴やらせトゴスルム合点の行ぬ思入あつて(ゴスル
ム)我國王にのいりにして某々秘藏せせる父祖傳來のそ
の劍と斯しらせ玉にや(アルフレッド)ヨ、子細あつて存
居る(ゴスルム)今お尋の無銘の劍の則これに候ふかり
上「衣服の間より短劍と取出してさし出せば英王取上げ
抜放し獅子の彫とば篤と見てト此内ゴスルム服の間より
短劍と出しアルフレッドへ出さこれと受とり抜いて見て
(アルフレッド)まがふうさなき汝が母メレーが告し劍を
るぞ(ゴスルム)ナニ母が告しと申の(アルフレッド)こ
れにの深き子細あり其譯逐一申聞んト合方替つて我過
し頃デニスと戦ひ遂に利あらせ亡ぼされ所定めさまよ
ふ折難義に及ぶと計らざる汝が母に助けられそが家と暫
しの内隠れ家とあしするが我アルフレッドある事と悟る
に附て名乗あへば汝が母の其いにしへ我幼き時の乳人
にて縁盡せしてふしぎの再會かゝる因みのあるもゑにい
ともせつある忠義の振舞いさせしひ哉りくまひし我と救

ん其爲に遂に刃にふしするが臨時の際の物語りに初
めて聞し汝が事生死の程も知れされと生あがらへて居る
からば証據の眉見に一ツの疵と所持を劍のかくくも
を尋ねくれよと乳母が頼みに心と附て尋ねおつたりされ
ば敵陣へ忍び入り汝と争ふ其砌り我見とめする眉見の疵
今又親しく面會せし能く見れば乳母が咄しに年齢符合
あそをゑにもしやと尋ね問ふるぞ上「過ぎ越し方の物
語りにゴスルムの目とまばたき(ゴスルム)ハ、只今君
のお物語で初めて知りし親の安否今日迄も世にかき事と
しらす月日と過せし君の以前我母がおそて申せし若
君にてふしぎに拜あつたしるも世になき魂の引合せと
思ひを落涙致しさりこれに附ても一人の妹あつて母もろ
とも別れて行衛知れざりし少しも御存のあらせられぬう
(アルフレッド)ヨ、その妹に對面させん(ゴスルム)スリ
ヤ存命で居り升せう上「對面させんと英王が近習の士官
へ呷く折一間の内に聲あつてト此時うしろにて呼皇后様



の出御トこれとかけに正面の扉と左右へ開き向ふ廣
 間庭中の書割音楽に成る上「暫く待つてまづ」と立出
 玉ふ皇后の窈窕たる花のうんばせ燦爛たる錦の衣いとも
 まばゆく見えにけりト此内奥より皇后イルスイザ官服
 立派の出立女童一人と連れ出で来りアルフレッドの次へ
 住居(イルスイザ)承れば戦争も和議調ひて今日より君の
 四海としろし召るゝよし恐悦申上る〇トアルフレッド
 へ一禮おしデニス使節ゴスルムとやらわらひ、英皇后
 あるぞ上「對面せんとおらうよに詞と掛けばゴスルムの
 夫と知らねばハハハット頭と下げて一禮おとトゴスルム
 妹と知らねば丁寧に禮ととるイルスイザ思入あつて上「イ
 ルスイザハ官服脱捨ツカ」と傍へ行トイルスイザ官服
 と脱ゴスルムの傍へ行(イルスイザ)ナウあつうしや兄の
 君わらひ、御身の妹あるイルスイザにて候ぞ(ゴスルム)
 なんとトおどろく(イルスイザ)互ひに幼さその時に御別
 れ申せし事もるにお顔に覺えのあらざれと亡き母さまが

教へ玉ひし証據にて兄と妹が名乗り合ふ上「その嬉しさ
 のいり計りと悦び玉へバゴスルムハ夢うと計りあつけに
 とられまばし詞もあがりしがト兩人よろしく思入あつて
 (ゴスルム)扱ひ英の皇后の離あらう我妹イルスイザであ
 つるうおもへバ不思議を此面會上「いひさき事も晴の
 場所打解難き此場のしぎそれとさつして英王トゴスル
 ムとつと思入アルフレッド兩人の心中と察して(アルフ
 レッド)絶て久しき兄妹話らう事も澤からん條約書とバ
 渡そ迄心置なく奥殿にて〇イヤサ使節の休息致されよ
 (ゴスルム)兄弟の情お察しあつていと難有君の御託(イ
 ルスイザ)仰に隨ひ兄に(アルフレッド)幸ひその方案
 内いさせ(イルスイザ)ハアハ(ゴスルム)左様ムれば我君
 (アルフレッド)後刻對面致せであらう(ゴスルム)ハツ上
 「はつと計りに妹が案内に連てゴスルムハ奥の間へ入
 りにけるト此内イルスイザ先にゴスルム奥へは入る上「
 跡見送りて英王の諸士に向ひて詞と改め(アルフレッド)

今汝等が聞く如く我方寸に違ひせしめて敵に和議と申入
 れ今より隨身をよ上り降伏せしも同じ事されば寛典の處
 置ともつてとみやりに許容おし條約の書と取りなせ解兵
 の式と行ふべし斯能首尾と得ふりしも不徳の我が所爲お
 らせ諸士が筋骨細身して力と盡せし勳もる満足に思ふお
 り軍功の賞典の追て沙汰に及ばん程に此旨諸隊へ通せべ
 し(ジュナゼン)ハ、難有き君の仰せけふのいりある吉祥
 日(諸士)君の御武運一時に開き一天萬乗と仰がれ玉ひ
 〇四海としろし召るゝのいと目出度事あるぞ〇これと
 申も日頃より寛仁大度にましまさる〇先つともつて恐悦
 至極御代萬歳と(みあ)祝し奉るト諸士皆く立禮お
 そ此時アルフレッド坐と立て(アルフレッド)諸士の祝詞
 と受るに臨み思起し事こそあれ〇ト樂太鼓と打込み勇ま
 しさ鳴物に成り(アルフレッド)昔々今に武威ともつて凡
 天下と治むる者恐らく武威の爲に倒る去れば仁徳ともつ
 て統御せざれば國礎と永遠に期し難し我不徳あれども今

よりして諸士と公議輿論と盡し人民と教育して文化に導
 き自由と幸福と得させ度まつゝ我英國の氷に圍まる島國
 かれは海軍と盛にして外國の敵と禦ぎ國の治安と謀るべ
 き我日頃の目的より斯時來つて經營せる獨立國の旗章の
 彼のゴスルム一家相傳の劔の影にかさどりて獅子の模様
 と旗に用ひ永く忠義に報ゆる寸志ヤア、誰りある兼て
 申附置し箱と是へ持參せよト奥にて(兵士)ハアト奥よ
 り兵士白木の箱と持出るアルフレッド蓋ととり詠への旗
 と出し(アルフレッド)我志願と貫くバ斯こそおさんと兼て
 より用意おしする旗章ト獅子の模様ある旗と開き見せる
 (諸士)スリヤ兼てより此御旗君に御用意(皆)あつ
 たる(アルフレッド)獅子ふんじんの勢ひにて四海へ英名
 かややさん上「國の榮えと後の世に轟る東風英の名と
 や軍記に残せらんとアルフレッド旗と捧げてさつと見得
 皆く引張りよろしく樂太鼓の入りし賑やうを鳴物にて

幕